



地球暮らし

創刊号

発行日 2006.1.20

株式会社さつまホーム企画室
地球やりなおし計画
事務局

創刊のごあいさつ ~一緒に考えましょう~

みなさん、こんにちは。さつまホーム企画室の瀧川です。いよいよニュースレター『地球暮らし』の創刊です。どうかよろしくお願ひいたします。前回の『準備号』はいかがでしたでしょうか？いきなりショッキングな内容で申し訳ありませんでした。でも、これからもっとすごいお話をすることになるかもしれません。

『地球暮らし』は、地球温暖化の問題を皆さんの身近な、そして深刻な問題としてご理解いただくために、いろんな情報をできるだけわかりやすく解説しようとするニュースレターです。内容自体は「おもしろい」と言えるようなお気楽なものではありませんが、図表を絡めた理解しやすい構成を心がけています。ひとりでも多くの人に、この問題をご理解いただきたいと願っています。なぜなら私たち自身が最大の被害者であり、最大の加害者でもあるのですから。



地球が暖まってしまうしくみ

~大気中のCO₂濃度増加が直接の原因です~

太陽から降り注ぐ太陽光のエネルギー量は、同じ期間(例えば1年間)で比較した場合、人間が全世界でエネルギーを消費して発生させるエネルギーの、実に1万倍にも上ります。そしてその約半分は吸収され地表を暖めます。暖められた地表は、赤外線を大気に向けて放射します。もし熱のやりとりがこれだけならば、地表は太陽光が途切れた瞬間に熱を放射するのみとなり、急激に気温が低下します。例えば月ではこれが実際に起って、昼と夜の温度差は300にもなります。

ところが地球ではこの赤外線が大気に吸収され、大気を暖めます。温まった大気は再び地表と宇宙空間の双方に向けて赤外線を放射するので、これで再び地表が温まります。このようなメカニズムを**温室効果**と呼んでいます。温室効果のおかげで地表の気温は世界平均で約15に保たれ、さまざまな動植物が息できるのです。(温室効果がない場合は、-18になってしまふと言われています)

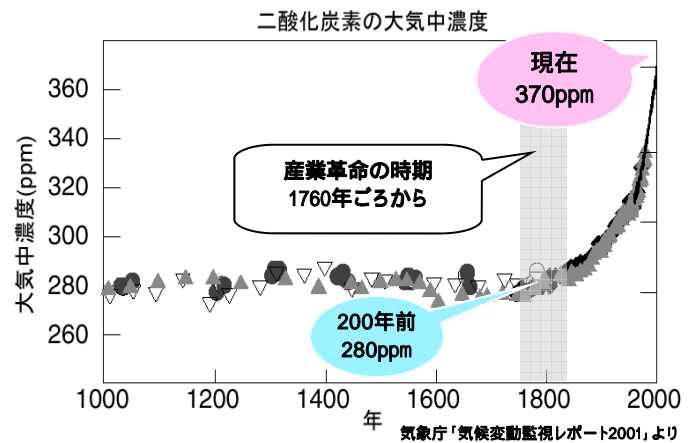
大気中に含まれるCO₂(二酸化炭素)は、この温室効果が比較的大きい気体です。(このような気体を「温室効果ガス」といいます。)なので大気

中のCO₂濃度は、地表の温度を左右するので、世界の大气中のCO₂濃度は、産業革命(18世紀後半ごろ)のころまでは280ppm(ppmは100万分の1)で、過去数千年に渡ってほとんど変化が無かったことが考古学的調査でわかっています、ところが現在はこの濃度が370ppmと、200年ほどの間に約3割も上昇しています。地球が30%厚着をしたこととなります。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第3次評価報告書は、「最近50年間に観測された温暖化のほとんどは人間活動によるものである」と結論づけました。

今回は、CO₂増加の具体的な原因についてのお話です。



温室効果ガスと地球温暖化のメカニズム



トピック

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ第1回閣僚会合

1月11日、12日に開催。日本・アメリカ・中国・インド・韓国・オーストラリアの6カ国が参加。8つの産業分野において具体的な協力を開始。

地球温暖化対策シンポジウム(地球環境関西フォーラム)

1月18日にグランキューブ大阪で開催。「地球温暖化防止」と「ヒートアイランド防止」の同時達成に向けて、脱炭素社会、省資源、省エネルギー型社会への転換を目指し、各界の取組み事例を発表。

情報リンク

IPCC(機構変動に関する政府間パネル・英文)

<http://www.ipcc.ch/>

環境省

<http://www.env.go.jp/>

経済産業省(クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップの報告)

<http://www.meti.go.jp/press/20060112003/20060112003.html>

EICネット(国立環境研究所の交流サイト)

<http://www.eic.or.jp/>

地球環境関西フォーラム

<http://www.global-kansai.or.jp/top.htm>

編集後記 ~Fragile~

昨年公開された『デイ・アフター・トゥモロー』は、地球温暖化をテーマにした(おそらく)初の映画だったと思います。お正月にビデオを借りてもう一度観ました。この映画の通り、温暖化を突き抜けて氷河期がやってくるかどうかは別として、主人公の言葉「Climate is fragile(環境は脆いのです)」はまさにその通り。地球の気候は、奇蹟的とも言える自然のバランスの賜物なのです。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com

FAX : 06-6855-7700

郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-11-47

ステップビル3F (株)さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます